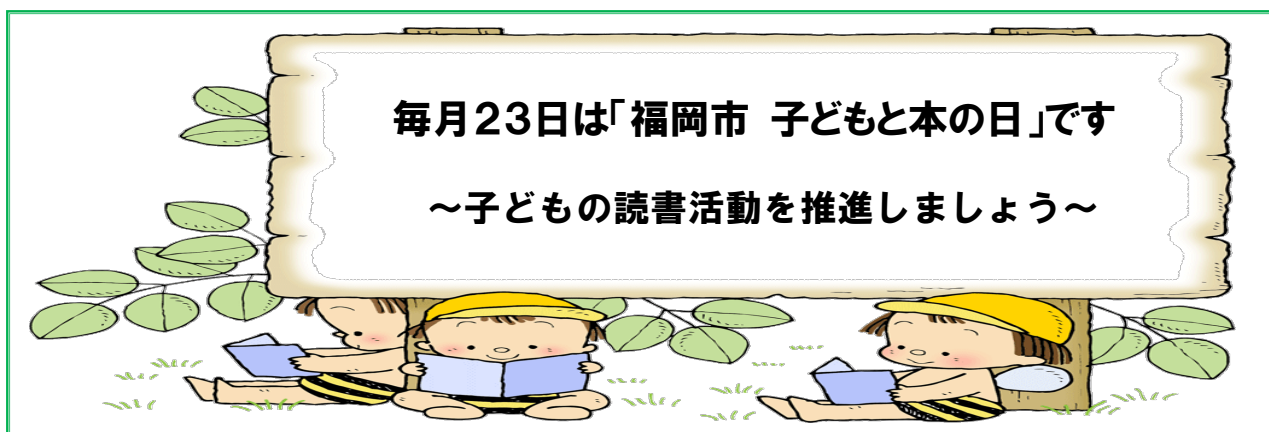




— 調べた内容が正しいか、確かめているか② —

先月号では、情報の正確性を高めるための方法の一つとして「本の活用」があることを取り上げました。しかし、自分の知りたい情報が載った本を探すのには時間がかかるものです。

そのような時、本を探すお手伝いをするのが、公共図書館や学校図書館の司書です。図書館には、「レファレンス」というサービスがあります

レファレンスとは、図書館利用者の調べたいことや探している資料などの質問について、本などの資料や情報の探し方をお知らせし、調べものをお手伝いするサービスです。

図書館の司書は、「調べもの」の専門家です。図書館にある本や雑誌・新聞から、データベースやインターネットで入手できる情報まで、さまざまな情報源の中から、利用者の要望に添った情報を探し出し、紹介します。

図書館では、司書に相談したり、質問したりすることで、調べたいことを明確にしたり、自分にあった資料を見つけることもできます。

本を探したい時や何かを調べたい時、困ったら、ぜひ近くの図書館を訪ねてみてください。きっと必要とする本や役立つ情報を司書が紹介してくれることでしょう。

また、福岡市総合図書館では、カウンターでの相談だけでなく、電話やメールでの相談も受けています。

<総合図書館 電話>

図書館資料全般についてのご相談 TEL092-852-0632

10:00 から 19:00 (日曜・休日は 18:00) までの間に、お電話ください。

(できる限り多くの方に利用してもらうために質問者お一人につき、1日3件まで)

<総合図書館 メール>

メールアドレス: reference_2022@toshokan.city.fukuoka.lg.jp

質問の場合は、質問内容、質問の出典や情報源、すでに調査済みの資料・機関・ホームページなどについて明記してください。調査相談以外については、お答えできません

詳しくは、総合図書館のホームページをご覧ください。

— ミュンヘン国際児童図書館 2024 年『ホワイト・レイプンズ』 —

世界最大の児童図書館、ドイツのミュンヘン国際児童図書館では、1984 年より国際推薦児童図書目録『ホワイト・レイプンズ』を毎年刊行しています。

同館は、原則、出版社から寄贈された本により蔵書が構築され、約 250 言語 67 万冊以上の資料を所蔵しています。

その蔵書の中から、文学性、デザイン性、テーマの普遍性、絵の素晴らしさなどのほか、アプローチがユニークであるか、他国の子どもにぜひ紹介したいか等を考慮して評価し、特に優れた作品を掲載したものが、『ホワイト・レイプンズ』です。

『ホワイト・レイプンズ』には、「白いカラスのように、めったに見られないような優れた作品」の意がこめられているそうです。

2024 年の『ホワイト・レイプンズ』には、62 か国 44 言語による 216 の作品が掲載され、日本からは下記の 8 冊の作品が選ばれました。

<2024 年の入選作品>

なみのいちにち	阿部結（作）	ほるぷ出版	2022 年
なつやすみ（日本傑作絵本シリーズ）	麻生知子（作）	福音館書店	2023 年
こどもべやのよる（岩波の子どもの本）	出久根育（文・絵）	岩波書店	2024 年
真昼のユウレイたち	岩瀬成子（作） 芦野公平（絵）	偕成社	2023 年
やまの動物病院. 2 とらまる、山へいく	なかがわちひろ（作・絵）	徳間書店	2023 年
伝言	中脇初枝（著）	講談社	2023 年
どんぐり	たてのひろし（さく）	小峰書店	2023 年
アチケと天のじゃがいも畑：ペルーのむかしばなし	宇野和美（文） 飯野和好（絵）	BL 出版	2024 年

機会がありましたら、子ども達へ紹介してみてもはいかがでしょうか。

はやいもので本年度も残り 1 か月となりました。学校では「まとめの時期」となっていますが、来年度の準備の時期ともなっています。年度末、各学校で作成した「学校図書館全体計画」をしっかりと振り返り、学校図書館を活用した教科との関連を図る取り組みの充実を図っていただきたいものです。

<須藤>



3 月 の こ と と 人

3. 11 いのちの日

14 年前の 2011 年。この日に発生した東日本大震災で、失われた命の尊さや大切さ、震災の教訓を忘れないために「災害時医療を考える会」が、健康、医療、災害時の体制などを考える機会を設けたいとの思いから制定した。

3. 14 数学の日・円周率の日

日本数字検定協会が制定。数学を生涯学習として、子どもから大人まで楽しめるものに発展させるようとの思いから、円周率の近似値 3.14 からを定めました。また、この日を円周率の日として、多くの国でパーティーなどが開かれることがある。

石井 桃子 (1907.3.10~2008.4.2)

埼玉県生まれ。日本の児童文学作家・翻訳家。「くまのプーさん」「ピーターラビットのおはなし」といった数々の欧米の児童文学の翻訳を手がける一方、『ノンちゃん雲に乗る』等、絵本や児童文学作品の創作も行い、児童文学普及に貢献した。

受賞歴も多く、2008 年旭日綬章を受章。

山下 明生 (1937.3.11~)

東京都生まれ。日本の児童文学作家、翻訳家。『うみのしろうま』、『はんぶんちょうだい』、『まつげの海のひこうせん』、『海のコウモリ』、『カモメの家』など、多くの作品が国内の文芸賞や文学賞を受賞している。また『バーバパパ』シリーズの翻訳でも知られている。2004 年 紫綬褒章受賞。

林 明子 (1945.3.20~)

東京都生まれ。日本の絵本作家。『こんとあき』の作者、『はじめてのおつかい』の共著者として知られる。『魔女の宅急便』など挿絵も手がけている。1983 年に男の子を主人公とした『おふろだいすき』(1982 年 4 月)でサンケイ児童出版文化賞美術賞を受賞した。(2013 年 3 月号)より出版

島崎 藤村 (1872.3.25~1943.8.22)

岐阜県生まれ。日本の詩人、小説家。「木曽路はすべて山の中である」の書き出しで知られる『夜明け前』の作者。その他『破戒』や『春』、詩集『若菜集』、童話集『ふるさと』などの作品が知られている。

1936 年、朝日文化賞受賞。

図書館員のひみつの本棚 第226回

今月は、世界の“納豆”についての本を紹介します。

『世界の納豆をめぐる探検』 高野 秀行／文・写真, スケラッコ／絵 福音館書店(2024 年)
¥1300(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★★ 中学生★★★★

高校★★☆ 一般★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

アジアやアフリカにも納豆と同じような食べ物があった！

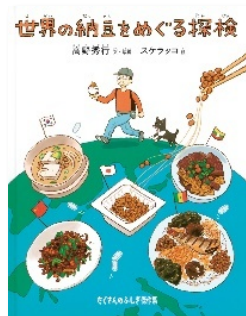
「誰も行かないところへ行き、誰もやらないことをやり、誰も書かない本を書く」がモットーのノンフィクション作家の高野秀行さんが、アジアやアフリカに行って取材した、納豆にそっくりな食べ物を紹介する。大豆を発酵させた後、乾燥させてせんべい状にしたミャンマーの“トナオ”、アフリカのブルキナファソにあるバオバブの種からつくるもの、などなど。世界の“納豆”だけでなく、それらを使った料理も紹介する。

また、日本の納豆の作り方や、歴史、起源なども解説されている。

<子どもに手渡す時のポイント>

納豆について興味が出たら、図書館には納豆に関する本、納豆の作り方の本などがありますので、ぜひ借りてみて下さい。

また、同じ著者による大人向けの本「謎のアジア納豆」、「幻のアフリカ納豆を追え!」(新潮社)に現地取材の様子が詳しくのっています。納豆を食べた著者の感想だけでなく、納豆を探し出す過程で触れ合った人や町の様子も書かれていて、その土地の雰囲気をもより感じられるので、大人向けの本が読めそうな子には、ぜひ勧めてみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。